

地域経済動向調査報告

平成 29 年度 第 1 四半期（4～6 月）

調査対象期間	平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月
調査期間	平成 29 年 7 月 5 日～平成 29 年 7 月 20 日
調査方法	郵送により、別紙調査票にて実施
調査項目	DI 値（景気判断指数）使用
調査対象数	100 業所
抽出方法	当所会員名簿から、業種のバランスを考慮し抽出

回答数及び回答率

業種	配布数	回答数	回答率	回答構成比
全業種	100	55	55.0%	100.0%
製造・鉱業	24	15	63%	27%
建設	20	15	75%	27%
運送	7	5	71%	9%
卸・小売	31	12	39%	22%
飲食、サービス	18	8	44%	15%

※平成 29 年 8 月 10 日現在

1. 業況感

	国	県	江津市
4月	景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	生産活動は緩やかに回復しつつあり、個人消費は緩やかに持ち直している	緩やかな持ち直し傾向にあるが、売上や業況については一部好調な業種を除き、依然厳しい状態が続いている。
5月	景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	ほか、雇用情勢も改善しており、人手不足感が広がっている。	
6月	景気は、緩やかな回復基調が続いている。		

※内閣府「月例経済報告」、財務相松江財務事務所「島根県の経済情勢」参照

2. 業況

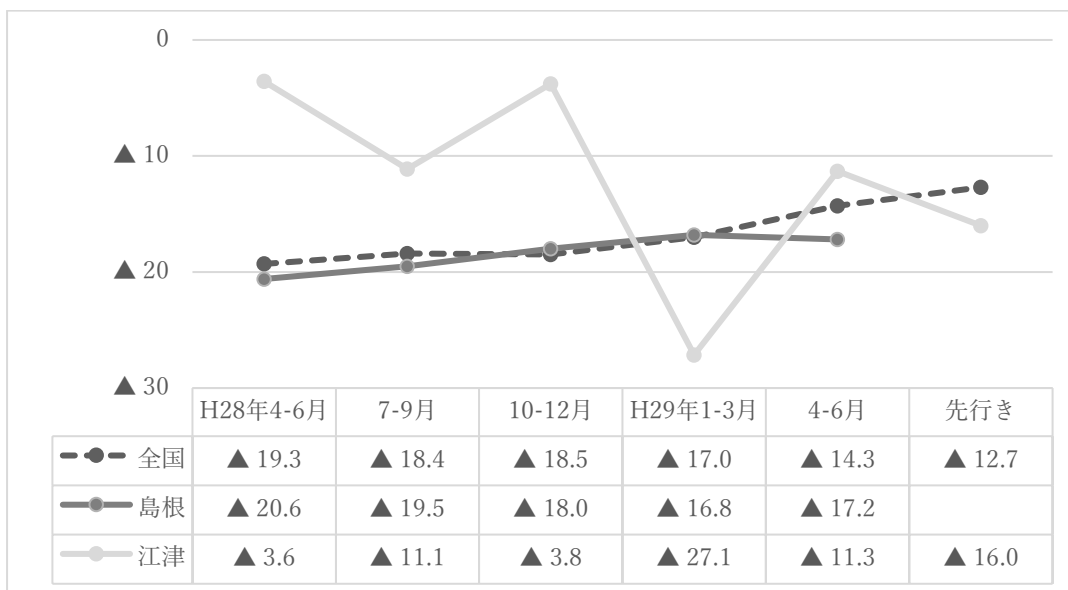
江津市の景気は、前回調査と比べると持ち直しの傾向（前回調査▲27→今回調査▲11）にある。前年度は4月の熊本地震、10月の鳥取中部地震を受け、瓦事業を中心に特需があったが、徐々に公共事業の減少を受けて建設業・運送業、競争の激化・需要の低迷等により瓦関連と卸小売業の業況が悪化。

一方、飲食業・宿泊業を中心としたサービス業は一定の需要があり、業況が改善（前回調査 17→今回調査 43）している。

（1）業種別の業況 D.I.（各期間比較）

	当期間と前の 3カ月間との比較	当期間と前年 同期間との比較	当期間と比較した 向こう3カ月間の 先行き見通し
全体	▲ 11	▲ 22	▲ 16
製造業	13	0	▲ 7
建設業	▲ 29	▲ 40	▲ 23
運送業	▲ 40	▲ 60	▲ 20
卸小売業	▲ 27	▲ 50	▲ 45
飲食・サービス業	13	43	29

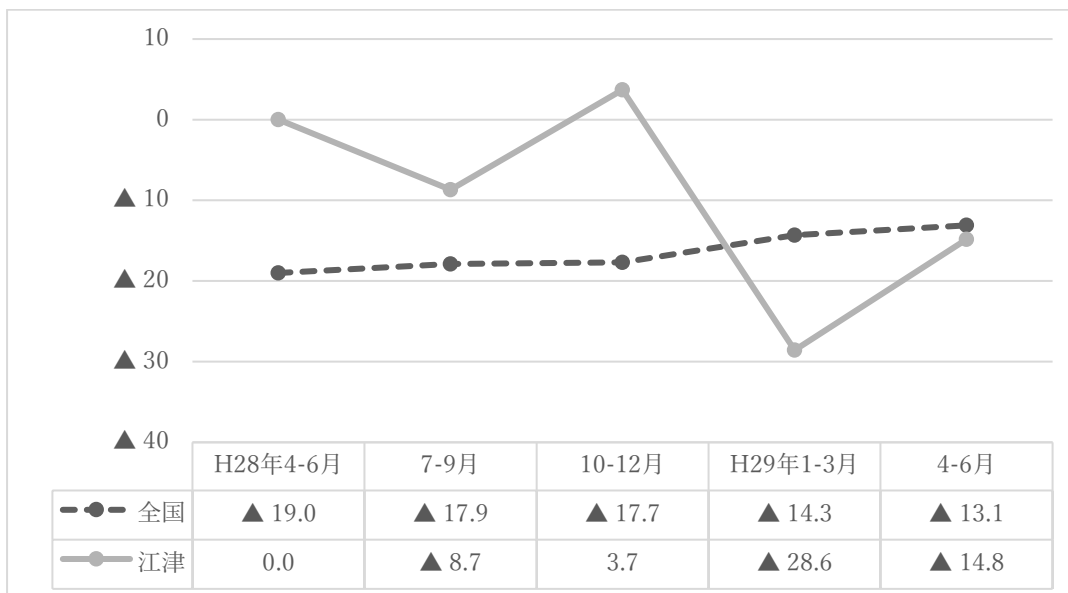
(2) 業況 D.I.の推移 (前期比)



3. 売上

(1) 売上 D.I.の推移 (前期比)

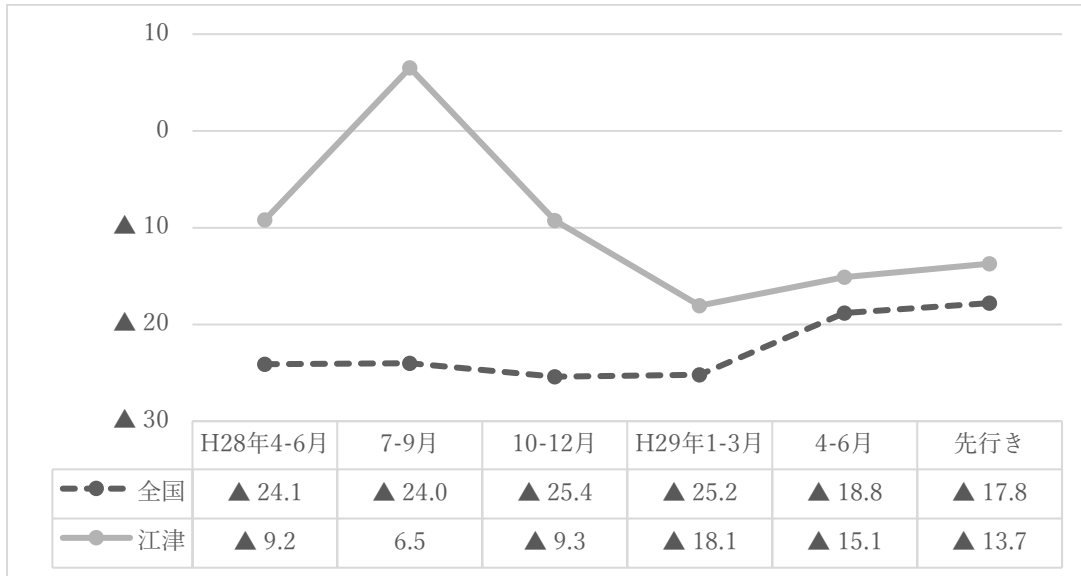
売上は前期と比べると持ち直しの動きが見られ、特に見通しは前回調査▲22→今回調査▲4と回復の兆しがみられる。前の3カ月との比較で売上が好転した業種は製造業と飲食・サービス業。建設業・運送業は依然 D.I 値が大きくマイナスを示している。



4. 採算

(1) 採算 D.I.の推移（前年同期比）

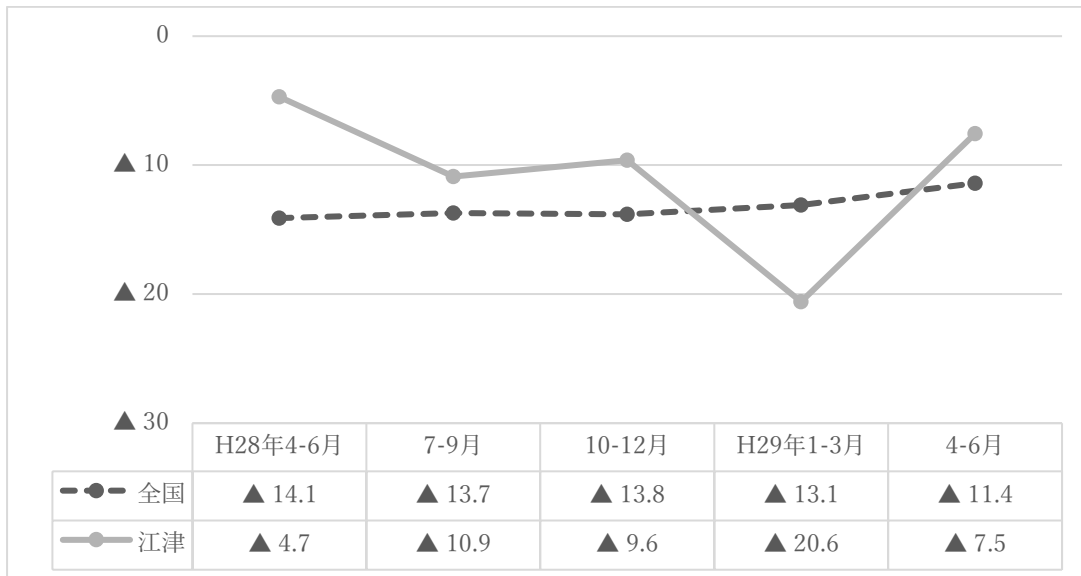
採算は前回調査と比べると前期比▲31→▲19 と緩やかに改善している。運送業や卸小売業はマイナス値が大きい。卸小売業のうち燃料小売業については3月末に新たな事業所が進出し、競争が激化。前期比、先行きともに採算が悪化している。



5. 資金繰り D.I

(1) 資金繰り D.I.の推移（前期比）

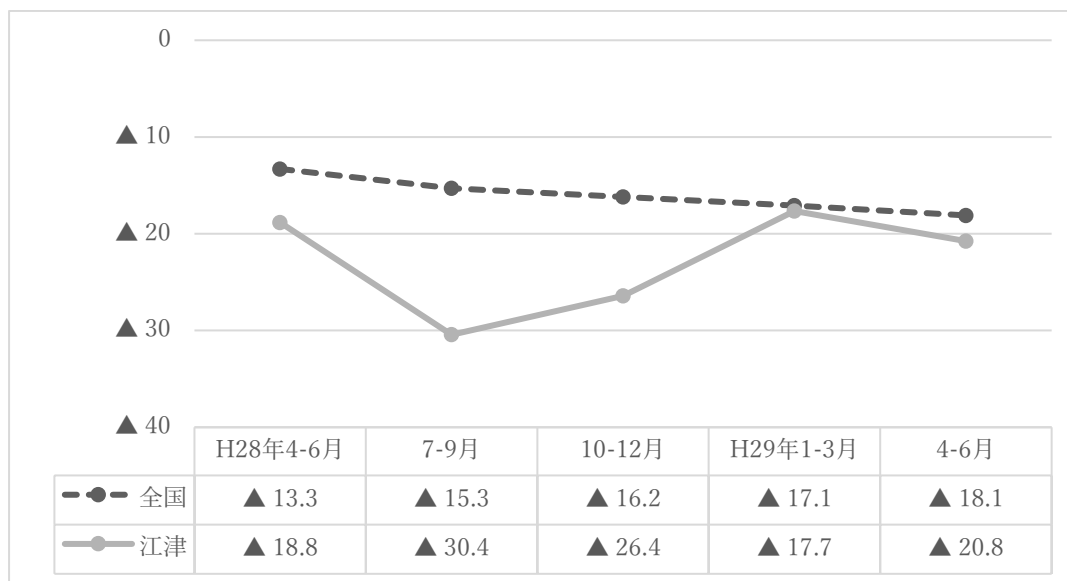
資金繰りについては全業種を通し、不変と回答した事業所が多く、持ち直しがみられる。しかし運送業では需要増が見込まれず、資金確保の先行きも▲40 と厳しい見通し。



6. 雇用 D.I.

(1) 雇用 D.I.の推移

年度初めという時期柄、人手不足の解消が図られたものと推測する。しかし依然としてマイナス値のままであり、経費をかけて募集しても人が集まらない、従業員が早期で退職してしまう、中途採用者とのマッチングなど人材確保の課題についてふれたコメントも多く、全国的な人材不足感が江津市にも深く影響していることが分かった。



7. 在庫 D.I.

(1) 在庫 D.I.の推移

